

# 令和4年度 学校評価報告書

宮城県立支援学校女川高等学園

## 1 教育目標

一人一人の人格と個性を尊重しながら、生徒の特性に応じた適切な職業教育を行い、自己の持つ能力や可能性を伸ばし、社会的・職業的に自立できる心身ともに健康で、誰からも愛される生徒を育成する。

### <今年度の努力目標>

- (1) 生徒一人一人の実態に応じた学習指導・生活指導・進路指導の充実
  - ・就労に必要な知識、技能等の獲得
  - ・自己及び対人関係における対応能力の強化
  - ・生徒同士、生徒と教師、生徒と地域社会との対話
- (2) 地域を理解し、地域に貢献できる生徒の育成
  - ・近隣小中高校、関係機関との連携
  - ・地産地消を踏まえた食育の取組
  - ・地域の文化行事等への積極的参加
- (3) 特別支援学校のセンター的機能の充実と理解啓発
  - ・教育実践の積極的な情報発信による特別支援教育の理解啓発
  - ・地域の小中高校のニーズに応じた相談、研修支援等の実施
- (4) 地域と共に学ぶ防災教育の充実
  - ・女川町や県内の被災地との連携を図る実践的な防災教育の展開
  - ・防災ボランティア
  - ・校舎内外の環境整備
  - ・安全な通学路の確保
- (5) 学校運営協議会の設置及び推進
  - ・地域と共にある学校づくりを推進する仕組みの構築
  - ・魅力ある学校づくりの推進
  - ・教育活動の内容を効果的に発信する取組

## 2 全体分析について

全体分析は、以下の基準でABC評価し分析を行いました。

評価	基準
A評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が80%以上
B評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%以上～80%未満
C評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%未満

### 【分析】

評価者	回答者数	項目数	A評価	B評価	C評価
生徒	69	30	30	0	0
保護者	57	35	35	0	0
教職員	50	37	37	0	0

[※対象生徒・保護者 各69名(1年19名, 2年24名, 3年26名), 対象教職員 55名]

### 3 考察及び課題と改善策について

生徒、保護者、職員の三者において、全ての項目でA評価という結果となりました。各評価者の肯定的評価の平均は、生徒94.0% [ R3 (95.4%), R2 (86.9%) ], 保護者94.9% [ R3 (93.7%), R2 (93.8%) ], 職員98.0% [ R3 (97.7%), R2 (96.3%) ] でした。今年度もコロナ禍における社会情勢が続いている中で、生徒、保護者から学校運営に対して肯定的な評価が得られたことは、概ね適切な学校運営を行うことができていると前向きに捉えることができました。各学年・分掌部においては、集計結果及び自由記述と教職員間での反省とを照らし合わせながら詳細分析を行い、次年度に向けての課題と改善策を検討していくことで確認いたしました。

生徒評価では、全ての項目においてA評価(肯定的評価の平均は、生徒94.0%)が得られましたので、生徒にとって学校は安心・安全の基、充実した生活を送ることができていると捉えることができました。しかしその中で最も低い項目(88.4%)がNo.10「先生方は、定期的にアンケートを行うなど、いじめの問題について適切に指導している。」でした。これは、いじめに対する生徒の関心の高さが感じられるとともに、改めて敏感な対応が求められていると感じられました。課題としては、いじめに対する生徒のニーズに十分応えられていないのではないかとということになります。その改善策としては、生徒が相談しやすい信頼関係を構築し、普段からちょっとした個別相談ができる環境を整えること。そして、いじめアンケートで要相談となった生徒に対しては、たとえその時点で何らかの解決が成されたとしても、しばらくの間、追跡調査を行うことでアフターケアの充実を目指していきたいと思います。

保護者評価では、二つの項目で80%台が見られました。そのうちの一つがNo.16「学校は、福祉サービスや相談事業所など卒業後の生活に必要な情報を提供している。」です。卒業後の進路に対する保護者の関心の高さがうかがえます。これまではコロナ禍のために、対面で情報をお伝えする機会が失われてきましたが、今年度は進路指導充実事業を新型コロナウイルス感染症対策を施しながら、全学年の保護者を対象として実施することができました。参加していただいた皆さまには、卒業後の就労や生活のイメージを持っていただけたことと思います。しかしながら、コロナ禍情勢のために来校できない保護者の方々も少なからずいる状況の中で、どのように情報を届けられるのかを検討する必要があると感じています。現状としてはコロナ禍情勢が続いている以上、個々の生徒の状況に応じて、担任から必要な情報を届けられるように心掛けていきたいと思います。

もう一つはNo.23「PTA活動は、学校職員や保護者同士の交流の機会となっている。」で、これは教職員評価でも該当している項目です。PTA行事に関しても、ほとんどの行事がコロナ禍のために2年間以上実施できませんでしたが、今年度は学年PTA親子行事や文化研修委員会研修として芸術鑑賞会への参加を募るなど、一部復活することができました。そのため、昨年度よりも高い評価になったと思われます。来年度以降も、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら実施することになるかもしれませんが、会話などに対しての制約が続くようであれば、会員相互の親睦を深めづらい状況は続く可能性があります。そのような中でも、行事を通して対面できる機会をできるだけ設けていきたいと思います。

### 4 その他

- (1) 生徒、保護者の方々から自由記述に記載していただきました御意見等については、今後の学校運営の参考にさせていただきます。
- (2) 新型コロナウイルス感染症への対応についてのアンケートに御回答いただきありがとうございました。いただいた御意見を基に、今後も感染症対策に努めて参ります。